

■市川小団次(4代) 歌舞伎役者。江戸歌舞伎最後の立役者・名人小団次とうたわれたが、<維新>直前の取締で憤死。

いちかわこだんじ

高田屋拿捕・1812= 江戸浅草生まれ。江戸市村座火縄売り高島栄蔵の子。

幼時、父と大坂に出て、

水野忠成老中1818= 6歳 :

伊能因完成・1821= 9歳 :

英船浦賀来航1822=10歳 : 市川米蔵を名のり子供芝居に出演。

シボ^ボ事件・1828=16歳 :

シボ^ボ追放・1829=17歳 : 大坂に来た_7代団十郎に入門。

富籤流行・・1830=18歳 :

鼠小僧磔・・1832=20歳 : 米十郎と改名。

上方では小芝居や浜芝居で修業し、変化舞踊、早替りやケレンで人気上昇した。

名古屋へ移住してからは、3代目市川升蔵に師事。以来、地方を巡業して技を磨き、

大塩平八郎乱1837=25歳 :

蚕社の獄・・1839=27歳 :

順天堂始・・1843=31歳 : 天保の改革令にふれて江戸を追放された旧師の7代団十郎が、大坂角座に出演したときに同座し、

天保改革終・1844=32歳 : *4代市川小団次を襲名。

阿部正弘首座1845=33歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1847=35歳 : *江戸劇壇に復帰し、「千本桜」の狐忠信の三絃の胴ぬけ、石川五右衛門の葛ぬけ、法界坊の釣鐘ぬけなどの早わざで観衆の喝采を受けた。

・ ・ ・ ・ ・ 1848=36歳 :

尊徳報徳論・1851=39歳 : *3代瀬川如阜の「東山桜荘子」の佐倉宗吾が大当たりとなり、

ペリー来航・1853=41歳 :

_ついで2代河竹新七(後の河竹黙阿弥)との緊密な提携が実現、江戸世話狂言に新生面を開いて行くが、

蕃書調所・・1857=45歳 :

桜田門外変・1860=48歳 :

小団次は小男で容姿がすぐれず、また悪声だったが、東西の技芸の長所をいかし、立役、女方を問わず師匠7代団十郎・5代松本幸四郎没後の江戸劇壇の雄となっていった。とくに黙阿弥の「宇都谷峠」の文弥と仁三、「鼠小紋」の鼠小僧、「網模様」の小猿七之助、「三人吉三」の和尚吉三、「勧善懲悪」の村井長庵と久人などを得意役とし、幕末の退廃期の下層社会をしたたかに生きる人物像の描写に妙技をふるった。

薩長同盟・・1866=54歳 : *「鑄掛松」の松五郎に出演中に病気で休演。その間に黙阿弥から濃厚な芝居を禁止するという幕府のお達しを伝えられると、身体をふるわせて憤り、まもなく没した。このお達しが小団次を精神的に殺したという黙阿弥の述懐が挿話として伝えられている。